

令和6年度 輪之内町立輪之内中学校 自己評価書

学校の教育目標	ひとりだちのできる生徒 ～自ら考え、よりよく判断して主体的に行動する生徒～				
経営の重点	認められている安心感		学び合っている充実感		成長できた達成感
町の重点	評価の窓	評価	第4ステージまでの成果		第5ステージ以降及び来年度以降の課題と改善策
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方（命の大切さ）についての考えを深める道徳教育の充実	B	・自分の弱さや迷い、揺さぶりなどを発言したり、書いたりできる生徒が育ってきている。 ・一人ひとりが教材に対して自分の考えをもち、実生活に立ち返って自己を見つめ直すことができた。 ・生徒同士が自分の意見を他者に伝え、議論することができた。 ・弱さに負けない、立ち向かう自分を育てるために教材や説話を通して自己を見つめ直す機会をつくり、何人かは進路選択の場面で弱い自分に打ち克つ生徒の育成を図ることができた。 ・道徳教育や朝の会集りの会など、さまざまな場面で教員の経験をもとにして生き方指導を行うことができた。		・道徳教育の交流が学年だけではなく、学校全体での交流をし、どのように進められているかが分かることよい。道徳主任よりステージごとの重点を提案したり、研修で学んだことを広めてもらうことよい。 ・深める発問やゆさぶりで、深く、大きく揺さぶれるような問いや1単位時間内での構成を考えていきたい。 ・多面的、多角的に事物や他者の気持ちを考えられるようにすることが課題だと感じる。意見交流を活発に行い、他者の意見から自分の考えをさらに深める時間を作るようにすることよい。 ・道徳的な実践力が育つような朝や帰りの会での語りを行う。
【人権教育】 自他の違いを認め、互いの人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	B	・QUや心のアンケートから安心して過ごせる学級、お互いを尊重できる学級になってきていると思う。 ・迅速な初期対応を心がけ、いじめや差別に繋がりそうだと感じることは「このくらいなら、」と思わず、毅然とした態度で対応にあたり、その後の見届けを行った。 ・いじめに関して職員で共通理解して対応するべきことは周知されて、学校全体としていじめに関して対応できた。 ・生活アンケートや自分ログ、日常生活の中で生徒のよさを見つけたり困っている生徒のことを考えたりした。		・互いの違いを認め合う姿をこれからも大事にしていく。職員間では、生徒指導交流で具体的な動き言葉かけ等の共通理解と行動。生徒間では、よさ見つけの継続。ただしマンネリ化の防止のために適切な声かけ、具体例を教師が示していく。 ・お互いを尊重した上で、他者の良さや他者が大切にしている価値を自分の生き方や行動に活かしていけるような対話や活動をしくめるような教師にならたい。 ・いじめや差別を許さない雰囲気を作り上げようとしていくことも大切だと感じる。普段の生活で、ダメなことはダメだと互いに声を掛け合える環境を作っていくことが第一歩だと思う。
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	いじめ・不登校・自殺等の未然防止と早期発見・対応の強化 SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化	B	・担任以外にも学年職員、養護教諭、相談員等、職員全体で生徒の心に寄り添い相談や指導を進め、全体においても共通理解を図ることができた。 ・職員会だけでなく、日常的に生徒たちに関する報道が行われていたと思う。また、不登校生徒の対応を、複数の教員で行うことができていた。 ・SCや心の相談員の先生方の協力により、充実したSOSの出し方教育を行うことができた。それにより、相談窓口を広げることができた。相談体制の強化につながった。 ・心のアンケートや無記名アンケートなどを通して、生徒の人間関係などの悩みに気づき、それを全職員が周知することで、問題の早期発見につながった。		・発達障害のある生徒に対する専門家による効果的な指導をのぞむ。 ・日々の授業などを通して、他の学級や学年の生徒とも信頼関係を築いていけるようにする。 ・常にアンテナを張って、生徒の些細な変化に気付くことができるようにしていくことが大切だと思う。 ・今後も定期的に心のアンケートなどを通して、生徒の変化に気づけるようにアンテナを高くしていく。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思ふ心を育成する探究活動の充実	B	・2年生の防災士において、目的をもって進められていた。 ・職場体験により地域の仕事への理解が深まった。 ・自分の育つ輪之内町について、よりよい故郷にするために、自分たちができることについて考えることができた。 ・自分たちで考えたことを発信させる機会をもたせることができた。 ・1年生の総合では、輪之内や郡上の環境への取組を知ること、より輪之内について知ることができた。 ・役場や岐阜大学の方の話を聞き、体験活動を通して輪之内町について理解することができた。		・地域との連携。人的資源の発掘をすすめ、連携していく。 ・職場体験への実施のための職員の業務負担を軽減する ・地域にスクールサポーターといった方がいらしゃるのであれば、どんな分野で関われるのかを教えてもらい、交流できたらいい。教師の負担減になる。 ・最終ゴールが不明確で生徒の気持ちが乗っていない部分があるので、最初に説明する必要がある。 ・2年生で行う内容が多く、計画を進めるときに慌たしい時期があった。ただ、今年度は早めに職場体験の準備が始められたことと防災士の試験を年明けにしたことで余裕が生まれた。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	B	・単元全体を見通したねらいを踏まえて、1時間単位の授業を仕組むことができた。 ・「学びの共同体」スタイルを取り入れ、授業を構築することができた。あらゆる授業において、根拠や言語化を大切にすることができた。 ・単語テストやパフォーマンステストを通して、個別に指導をしたり、自分の意見を書く時間を意図的ににつくったりした。 ・ICTを活用した授業づくりをすることで、生徒が主体的に学ぶ姿勢を養ったり仲間との学び合いで学力の向上につなげることができた。 ・ペアだけでなく、スクランブルなど、様々な交流を行って、多様な意見に触れるようにした。交流後、自分の考えを深まりを言語化する時間を設けた。		・実態に応じた目標設定。その活動を進めるためには、魅力ある導入。職員会等でミニ研修の交流。 ・教科部内で共通した方向性を確認しながら、授業づくりをしていくことよい。 ・グループ交流において、もっと話し合うことの視点をわかりやすく示したい。生徒に任せる部分が多い分、関わることで少なくなってしまうので、少ない機会の中での確かなつなぎかたができるように、授業研究に臨みたい。 ・来年度の発表に向けて全職員がICTを活用し、授業の導入からの流れを考えた授業づくりをしていく。 ・授業が発表や発表内容の整理で終わってしまい、まとめを書く時間が確保できない時間が多かったため、50分の時間配分をしっかりと考えていきたい。
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実（「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体的な充実）	C	・タブレット、ICT機器の活用を教科や学級の活動に積極的に組み込んだ。 ・ICTを活用してグループで意見をまとめたり、発表資料を作成したりすることができていた。 ・学級活動や総合の学習でもロイノートを使って、班でそれぞれが話し合いながら編集する作業ができた。 ・ICTを生徒が活用して、自分でするべき学習することを選択することができ、個別最適な学びにつなげることができた。		・ICTミニ交流会の実施。時間の確保も難しいと思うので、月に1～2回程度5分以内の実施。 ・家庭学習でももっと生徒に使用させるように、働きかけていきたい。 ・授業の中で有効的にICTを活用し、意見交流や思考ツールとして役立てていきたい。 ・個別での学びには使用したが、協動的な学びにあまり使えていないので、使い方や使わせ方を学びたい
【外国語教育】 外国語に慣れ親しむ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	B	・コリアンデーやイングリッシュデーなどを通して外国語や外国の文化に親しみ、関心をもって積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見受けられた。 ・ALTを中心に会話を通して学ぶ機会があった。 ・英語の授業を通して、生徒が英語でコミュニケーションをとる時間を充実させ、どうにかして自分の思いを英語で伝える生徒育成を図ることができた。		・掲示物や案内図、配布物に英語の入ったものを取り入れていく。 ・生徒たちが英語の学習に主体的に向かえるように、指導方法を工夫していきたい。 ・授業以外で発信したり、ICTを利用してもっとコミュニケーションを図れる機会をつくりたい オンラインでの英会話など。 ・英語が苦手な生徒も英語でコミュニケーションがとれるような手立てを考えていく。
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置付け 事前・事後指導の充実（キャリアパスポートの活用）	B	・職場体験を通して、働くということを実感できた。「なりたい自分」を軸に置いた目標のため、点にならず、線で振り返ることができた。 ・2年生では、職場体験を通して、職業観を養うことができた。自分のキャリアや人生設計を大切にしていけることを伝えることができた。 ・修学旅行の調べ学習では、働く人への視点において、学習させた 東京でも、実際にインタビュー活動を仕組んだ。 ・生きるを活用した職業調べや、2年生の職場体験などを通して働くことへの考え方を生徒がもつことができた。		・中学1年生から、継続的に清掃や係活動などを通して、職業観に関する指導の継続をする。 ・「なりたい自分」が今年度スタートしたので、来年度も継続したい。 ・職場体験をやっただけになってしまっている。上手く自分で機会を生み出し、キャリアについて触れられるようにしたい。 ・地域活動に参加する機会が増えてきた。町とも連携をとり、計画的に進めて輪之内町に貢献していけることよい。 ・生きるやキャリアパスポートの活用が不十分。総合の年間指導計画に従って生きるを行う。キャリアパスポートに書いた内容を二者懇談で話す。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てるための学級経営の充実（QU検査の活用）	B	・QU検査を活用し、班編制や学級での活動、取組を学年で打ち合わせて進めた。 ・子供たちに任せることに重きを置き、一人一人や自分の役割を果たすことを通して、学級の中で位置づいていくような支援を行った。 ・学級の中で存在感や自己肯定感を上げるために、帰りの会などで良い姿を話し、クラスに広めることができた。 ・特別活動を大切にするという学級経営を行うことができた。また、特別活動で得られた経験や成果を学級で価値付けすることができた。 ・学校行事を通して人間関係を高め合えるように取組を意識させた 違いを認め合えるように声のかかけ方などを指導した。		・「自分ログ」の活用の充実。生徒の言葉や思いを敏感にキャッチし、学級のまとまり、成長に繋げる。 ・来年度も年度当初になりたい自分をイメージさせ、それに向かってどのような努力をしていくのかを考えさせていきたい。 ・他者意識をもって、集団の中の自分という立ち位置、役割をもつことがまだ弱い。 ・目立つ行動だけでなく、地道に行動している生徒のことを気付けるような取り組みを考えたい。 ・各委員会の提案がマンネリ化しないように、委員と顧問の連絡会を設ける必要がある。 ・様々な行事を通して学級集団としてのまとまりを感じる一方、QUが有効に活用されているかという点でできていない。
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	体力向上のための取組 自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	B	・保健体育の授業では、運動量の確保に努めることができた。 ・手洗い、歯磨き、換気などの意識づけができた。 ・命を守る訓練を通して、自分で自分の命を守る防災意識を向上することができていたように思う。一人ひとりが真剣に取り組んでいた。 ・防災士講座も踏まえ、命の大切さを語る機会を設けることができた。 ・命を守る訓練を通して、生徒が災害時にどのような行動をとればいいのか考えることができた。 ・休み時間の過ごし方、自転車の乗り方など、声をかけて見守っている。生徒たちも応えようとする姿が育っている。		・安全意識の向上。例えば廊下を走ったなら、ヘルメット非着用で事故に遭ったらを考えさせる。朝活動など学級の時間に安全な生活を送るための動画の活用。 ・防災士講座で学んだことを継続して日常生活に活かせるようにしたい。 ・自己管理能力を育てたい。また、不審者対応、指導も、最悪な状況を考えて上でのいろいろなパターンや必要な指導を行いたい。 ・命を守る訓練を通して現実的に起こりうるシチュエーションで行う。例えば、月曜日の5時間目の授業を受けている設定で生徒・教員を配置し、訓練を行う。
【コミュニティ・スクール】 地域と一体となって特色ある学校づくりを進める。	学校運営協議会の活動、地域学校協働活動を推進し、地域とともに行う学校づくり	B	・毎月第3月曜に登校指導を民生委員会の方々が協力してくださり、生徒の安全の見守りと挨拶を通して声かけをしていた。 ・2年生の職場体験の事業所を探していただけのはよかったです。 ・地域講師を招いた環境の講演に参加した。 ・総合の学習で、発信する場をつくってもらった。 ・行事等で、地域と関わりながら進めることができていていると思う。 ・学校運営協議会の方が生徒の様子を見に来てもらうことで、地域の方と一緒に生徒を見ていくことができた。		・外から見る学校の様子について、運営協議会での授業参観を通して、感じたことを継続して教えていただく。 ・ふれあいフェスタなど、生徒が関わる場所から、自分ももっと関わっていききたい。 ・地域の魅力を発見したり、地域で働く方と触れ合う機会がつかれることよいと思う。 ・職場体験の事業所確保をお願いしてもよいと思うが、やりとり時間がかかって身動きがとれないと結果的に時間がかかってしまう。今年度は、昨年度開拓された枠を使って教員がお願いしたため、比較的スムーズにできた。
【学校経営】 全教職員が協力しチーム学校として活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	B	・学年で共通理解を図り、学年運営が協力して進められていた。 ・平日の部活がなくなり、仕事がしやすくなった。 ・音楽祭は全校・学年・学級が集団としてまとまる、いい活動だと感じた。 ・協力しあって勤務できている。生徒対応や生徒指導についても複数人で協力して行えた。 ・相談に乗りやすい環境で働きやすい。 ・残業の時間を意識するようになってきた ・学年部を中心に、お互いにフォローしあえる教職員集団になっていると思う。		・勤務時間の適正化。退校時間が遅くなってしまう職員が昨年に比べ、多い。校務分掌などを一人の職員が抱え込むのではなく、分担を明確にして負担を軽減する。 ・互いに声を掛け合い、帰りましょう宣言。〇時には帰りましょう宣言の啓発活動。 ・一部の教師に負担が重なってしまわないように、経験年数などを考慮して、校務分掌を割り振りしていきとよいと思います。 ・特別支援クラスの計画表作成などのが多く、業務を軽減してほしい。教材もほしい。 ・全職員が提案する経験をするために、職員会の提案を指導部会内でローテーションする。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	研修主事を中心とした組織的・計画的な研修の実施	C	・魅力ある導入の工夫を考え、進めることができた。教科部会までではないが、打ち合わせを行い、活動や指導の進め方の確認を行った。 ・目的をもって研修に取り組み、学んだことを取り入れて授業をすることができた。 ・研究授業をとおして、どんなことを考えて授業づくりをするのか学ぶことができた ・全校研究会や郡教研の提案などを受けて、自分にできそうなことを考え、少しだけでも実践しようとした。		・継続的に研修の交流ができていなかった。隙間時間を見つけ、ミニ教科部会の頻度を増やしていく。 ・センターの研修等で学んだことを、職員に広めていくような場をもてるとよい。 ・来年度の発表に向けて、計画的に研修実施していく。 ・研修の必要性も分かるが、学級経営の負担とならない程度に参加するべきである。
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基礎となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	B	・特別支援学級の担任や支援員と確認の場を設け、生徒の指導に役立てた。 ・担任の先生は支援の必要な生徒の保護者と懇談等を通して、指導の方向を確認していただいた。 ・自クラスに所属する生徒とのコミュニケーションを意識した。(班活動や学級通信など) ・生徒指導交流などで特別支援学級の生徒の話をたくさん教えていただけるので、生徒一人一人に対する声掛けをしやすかった。 ・特別支援担当の教員だけでなく多くの先生が特別支援の生徒と関わるすることができた。		・特別支援学級の生徒もそうであるが、通常学級に所属する生徒の支援体制作り、次年度への見通しを早め早めに進めていく。生徒指導交流にて特別に支援を要する生徒の交流を入れていく ・一人一人の最適な教育的ニーズを自分で考えていきたい。 ・特別支援生徒の授業参加や交流学級の配置など、今から小学校にも要望を伝える必要がある。 ・個別の支援計画を立てて終わってしまう。計画に基づいて手立ての効果を定期的に振り返る。
学校関係者評価	【生徒の学校生活について】 ・いじめについて、「ある」と思っており対応することが大切である。 ・体の「かたい」生徒が多い。そして、肥満度が高い。(輪之内町は県内でも上位)食生活も要因だが、運動不足も挙げられる。 ・マスクを着用している生徒もいた。先生もみえた。会話がしにくいこともあるので、必要以上に着用しなくてもよいのではないかと。 【学習状況について】 ・全体的に明るい雰囲気、楽しそうに学習していた。 ・一人一台のタブレット端末の活用はよい。自分の考えをもつことに繋がられている。 ・薬物乱用防止教室(講師:大垣水都ライオンズクラブ)で比較的身近なエナジードリンクにもカフェインが多量に入っていることから、飲み過ぎに注意することがわかった。身近な例で分かりやすかった。 【地域との連携について】 ・通学の見守りをしているが、あいさつもできている。 【その他】 ・アンケートで①②と答えた生徒、授業に参加していない生徒にも、目を向けて対応してほしい。 【今後の要望・改善点】 ・教師側が今の生徒に合わせた語り方をするようにさらに努めてほしい。 ・Web出願になるなど、高校入試の形も変わってきた。その一方で国語辞書を活用していた。最先端のことも大切だが、これまでのことも大切にした教育をしてほしい。 ・来年度から新標準服になることから、自分たちで校則を考えることもよい。 ・企画から参加する活動をつくり、ボランティア・パスポートに記録していく。そして褒める場を設け、参加意識や意欲を高めるようにしたい。				